

区分・種別	県指定天然記念物		
名 称	ベニモンカラスシジミ		
所 在 地	東温市上林		
所 有 者		管 理 団 体	東温市
指定年月日	昭和37年3月23日		
解 説	ベニモンカラスシジミは、昭和32（1957）年に日本産チョウの新種として発見されたものである。 カラスシジミやミヤマカラスシジミによく似ているが、表に赤い紋が現れるのが特徴である。この赤紋はオスの方がメスよりも大きい。皿ヶ嶺のきわめて限られた地域のほか、高知県、広島県、岡山県などの山地でもその後発見されたが、四国産の特徴をもつ亜種として珍種である。卵で越冬し、翌年幼虫、サナギを経て体長1cmほどの成虫となり、主としてコバノクロウメモドキ、クロウメモドキを食する。 成虫は6月下旬～7月の梅雨期にかけて出現し、ミヤマシグレ等の花に集まるが、その個体数はきわめて少ないうえに食草まで採取され、近年はほとんど人の目に触れないようである。		

